

第6回 環境振動制御技術小委員会議事録（案）

A. 日時 2010年2月25日（木） 17:00～19:00

B. 場所 建築会館 会議室

C. 出席者（敬称略）

鈴木主査、他5名

D. 提出資料

No.6-0 第5回 環境振動制御情報小委員会議事録（案）

No.6-1 第6回環境振動技術小委員会議事次第

No.6-2 環境振動運営委員会 議事録（案）

No.6-3 2009年度 小委員会活動成果報告

No.6-4 2009年度 環境工学委員会 運営委員会 自己評価

No.6-5 ブラインド解析結果

No.6-6 解析条件表

E. 審議事項

1. 前回議事録：承認

2. 環境振動運営委員会の報告

- ・性能設計法小委員会、性能設計法ハンドブック刊行小委員会内ではハンドブックのチェックが完了した。運営員会で査読への協力依頼があった。

→小委員会でも内容を確認し、意見をあげることができるか、という質問があった。

3. 環境振動シンポジウムの状況

- ・1/19に開催された環境シンポジウムを振り返り、感想や意見交換を行った。

4. 2009年度小委員会活動成果報告

- ・資料 No.6-3 に基づく報告があった。

5. ブラインド解析の進め方について

(1)解析結果について

資料 No.6-5 の解析手法や結果についての説明があり、意見交換を行った。

(2) 解析条件表

資料 No.6-6 の解析条件についての説明があり、今後の方針について意見交換を行った。

- ・ブラインド解析の方向性としては、「ある方法で解析を行うと、この範囲の結果が出せる」というものを整理する。
- ・解析結果を比較する真値とは何をしめすのか。

→実測値は、同じ構造であっても施工精度や材料によって値がばらつくため、精密モデル

の解を真値としてはどうか。

→実測値と精密モデルのすり合わせは、どこかで必要になるのでは。

(3)今後の方針

- ・ 短期的な目標として、解析手法以外を統一したシンプルな構造のモデルで解析を行う。
- ・ 解析手法が異なっても、条件が同じであれば同様な結果が求まることを確認する。
- ・ 例えばモデル化範囲のみを変更するモデルを解析する担当若しくはグループを決めて検討して行き、どのパラメータが解析結果にどの程度の影響を与えるかの確認をする。

F. 次回の予定：4月27日（火）17:00～19:00

以上